

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
大阪ハイテクノロジー専門学校		昭和62年4月1日		橋本 勝信		〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 大阪滋慶学園		昭和62年4月1日		浮舟 邦彦		〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
医療	医療専門課程	鍼灸スポーツ学科		平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	本学科は、中医学に基づいた鍼灸治療を中心に、東洋医学と西洋医学の両面からアプローチできる鍼灸治療の専門家、スポーツ愛好家から競技スポーツ選手までをサポートできる鍼灸師の養成を、業界と連携のもと、実践的な技術・知識の習得を目指す。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得目標資格: はり師、きゅう師、アスレティックトレーナー(日本スポーツ協会)、健康運動実践指導者(健康・体力づくり事業財団) トレーニング指導者(日本トレーニング指導者協会) 当初入学者数: 89名、中途退学7名 退学率7.9%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,420 単位時間	2,010 単位時間	480 単位時間	930 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
90 人	74 人	0 人		0 %				
就職等の状況	■卒業生数(C)		27	人				
	■就職希望者数(D)		23	人				
	■就職者数(E)		23	人				
	■地元就職者数(F)		11	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		48	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		85	%				
	■進学者数		1	人				
	■その他							
	その他4名のうち2名が国家試験不合格により月1回学習サポートを行っている							
(令和 5 年度卒業生に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和5年度卒業生)								
株式会社ハイレン 株式会社メディカルワンジャパン								
株式会社くまのみ ソエルテ フィジカルバンガード かがやき整骨院 foryou鍼灸整骨院 株式会社アーチ								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/							
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-hightech.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		3,420 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		90 単位時間						
うち必修授業時数		3,420 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		90 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		3 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計		6 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

鍼灸治療の専門技術は経験に裏づけされた技術であるため、熟練した現場の鍼灸師からの指導が重要である。また、スポーツ・健康分野は常に行政の動向や社会のニーズを把握し、業界の情報を収集して学校教育に反映させることが求められている。さらに対人援助職として求められるコミュニケーション能力などの社会人基礎力についても、業界からの意見を反映して教育指導にあたらなければならない。業界などの意見を計画的に収集する手段の一つとして、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては鍼灸スポーツ学科の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 勝信	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
福士 暁也	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
安達 隆之	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
矢野 昌人	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
井上 佳子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
鈴木 次郎	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
川村 智広	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤江 洋志	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
澤田 正二	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
泉谷 信行	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関谷 俊範	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
尾沢 怜子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
上田 忠佳	物産アニマルヘルス株式会社開発本部 池田動物細胞医薬センター 主席部員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 理事 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
影石 言光	滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討委員会 委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
中武 大輔	株式会社 サップス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田村 智雄	公益社団法人 大阪府柔道整復師会 淀川支部	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
乾 紘	株式会社GENKI	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
嶋田 琢磨	しまだ鍼灸訪問治療院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
杉浦 正人	関西医科大学香里病院 臨床工学技士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
宮本 哲豪	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院 医療技術部 臨床工学課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
村川 圭三	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会 副 会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
氏浦 亜由美	マイヘルスクリニック 心斎橋院 放射線科 技 師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
福西 康修	公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支 部 幹事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回の実施(6月・1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月27日実施 18:30～20:10

第2回 令和6年1月18日 18:30～20:10

第1回 令和5年6月30日実施 18:15～20:10

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員会からの意見①「卒業生から業界セミナーの実施をしてはどうか」→活用状況:元プロ野球チームトレーナー、現イギリスサッカートップリーグのパーソナルトレーナーの講演を実施している。

編成委員会からの意見②「災害発生時の対応を身に着けほしい」→活用状況:施術環境におけるKYTトレーニングと合わせて施術中に地震が発生した際の対応についてグループワークを実施している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習担当者には評価表による個別評価を依頼している。学内では臨床的かつ現場的な知識・技術の習得を目指し、臨床・スポーツ現場にはそれを実践できる場を求めている。企業等の選定はその目的にかなう所であり、担当のスポーツトレーナーが教育的概念を持っていることを条件としており、担当者の直接的指導下で実習ができる所としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

スポーツトレーナーが活躍している実習先で、競技特性に合わせた技術やスキルを学ぶ。また、社会の一部に触れることによって、社会人基礎力も含めた総合力を身につける。企業(担当者)には最先端の知識や技術を教えていただいている。また、専任教員が現場担当として活躍する場面もあり、学生と一緒に帯同し知識・技術を教えている。学内の実習では基本的には専任教員のみである。(企業からのオリエンテーションなどは除く)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーナー実習Ⅰ	スポーツ現場等での実習を通じ、学習内容の活用法を学び、職業訓練に繋げる。	パナソニックインパルス
トレーナー実習Ⅱ	スポーツ外傷、傷害発生時に行う適切かつ迅速な救急手当を修得する。	SEKISUI チャレンジャーズ
予防とコンディショニングⅠ	コンディショニング理論を学び、ストレッチングを中心に実際のコンディショニングの手法を修得する。	アールビーズ
運動生理学Ⅱ	目的や競技特性に応じた身体機能・体力測定から選手の特徴やトレーニング課題を見つけられる知識と技術を修得する。	FCバサラ
トレーニング科学Ⅰ	パーソナルトレーニングまたはチーム単位のストレングストレーニングについて実践力を身につける。	フィジカルバンガード

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

鍼灸師やトレーナーは常に世の中のニーズや行政の動向に敏感に反応しなければならないため、教員自身が専門分野について学ぶ研修の充実が必要である。また、学生の変化(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取組みが必要である。このようなニーズを踏まえて、専門分野に関しては職能団体等が行う研修や学会に参加することを奨励し、また学内ではFD活動など授業方法の改善に関する研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内容について会議等で報告することとなっている。研修に於いては、学校法人 大阪滋慶学園 教員研修規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第72回(公社)全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和5年6月9日～11日	対象:	専任教員
内容:	鍼灸に関する最新の研究内容の学術発表および講演が開催された。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「第46回教員研修」	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和5年 8月24日・25日	対象:	専任教員
内容:	多くの養成校教員が参加し、専門分野に対する指導方法や電子教材の開発について講演が開催された。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第73回(公社)全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和6年 5月24日～26日	対象:	専任教員
内容	鍼灸に関する最新の研究内容の学術発表および講演が開催		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「第47回教員研修」	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和6年 8月8日・9日	対象:	専任教員
内容	教員に対する評価方法や動画教材の開発状況について情報提供を予定されている。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもである。

本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などととも、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報
(3) 教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5) 学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11) 国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福永 かほる	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
福菅 英子	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
久保 みのり	近隣関係者(北中島社会福祉協議会)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域代表
高橋 絵吏	大阪信愛学院中学校高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生 上野佐藤株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達矢	学校法人 大阪成蹊大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
堀口 正剛	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
難波 昭典	八尾市立病院 放射線科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革、教育システムと教育
(2) 各学科等の教育	学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6) 学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート、修学支援新制度対応
(8) 学校の財務	法人財務状況
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	場所		教員		企業等との連携		
	必修	選択必修	自由選択								校内	校外	専任	兼任			
1	○			外国語	グローバル社会における基本的なコミュニケーション言語である日常英会話を習得する。	1前	30	2	○			○			○		
2	○			保健体育	健康・安全や運動について、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。	1後	30	2	○			○				○	
3	○			栄養学Ⅰ	基礎栄養学をスポーツと関連付けて学び、アスリートに対する栄養指導のあり方を理解する。	1前	30	2	○			○				○	
4	○			栄養学Ⅱ	過剰摂取や欠乏症など栄養に関わる諸問題を学び、栄養指導について深く掘り下げる。	1後	30	2	○			○				○	
5	○			医療情報学Ⅰ	医療情報学の役割、医療現場で必要となるコミュニケーション技術を学習する。	1前	30	2	○			○				○	
6	○			医療情報学Ⅱ	医療情報学の基礎、他者への表現方法を学習する。	1後	30	2	○			○				○	
7	○			医療情報学Ⅲ	医療情報学の編集、他者への効果的な表現方法を学習する。	2前	30	2	○			○				○	
8	○			解剖学Ⅰ	骨学・筋学・神経学を学ぶ。 この教科を学ぶことで他の科目の基礎とする。	1前	60	4	○			○				○	
9	○			解剖学Ⅱ	内臓・脈管を学ぶ。 内臓の構造や機能、生理活動を理解し、脈管の走行を覚える。	1後	60	4	○			○				○	
10	○			解剖学Ⅲ	解剖学を復習し、知識の定着をめざし、臨床科目に繋げる。	2前	30	2	○			○				○	
11	○			生理学Ⅰ	循環や呼吸、代謝など人体で営まれる植物機能と内臓の機能と構造について学ぶ。	1前	60	4	○			○				○	
12	○			生理学Ⅱ	神経系の機能や筋の機能、身体運動の調節について学ぶ。	1後	60	4	○			○				○	
13	○			生理学Ⅲ	生理学を復習し、知識の定着をめざし、臨床科目に繋げる。	2前	30	2	○			○				○	
14	○			運動生理学Ⅰ	運動をすることによって起こる身体の変化や適応状態について基礎的な知識を習得する。	1後	30	2	○			○				○	
15	○			運動生理学Ⅱ	運動することによる身体の変化や適応状態についての応用的な知識を習得する。	2前	30	2	○			○				○	
16	○			病理学	各種疾患の原因について学ぶ。 病的変化を覚え、正常との違いを明確にする。	2後	30	2	○			○				○	
17	○			臨床医学総論	各種疾患を系統立てて概要を理解する。 臨床的思考を確立する。	2前	30	2	○			○				○	
18	○			臨床医学各論Ⅰ	脳神経外科・整形外科等について学ぶ。 各疾患の特徴を覚える。	2前	30	2	○			○				○	
19	○			臨床医学各論Ⅱ	脳神経外科・整形外科等について学ぶ。 各疾患の特徴を覚える。	2後	30	2	○			○				○	
20	○			臨床医学各論Ⅲ	内科・泌尿器科・産婦人科等について学ぶ。 各疾患の特徴を覚える。	3前	30	2	○			○				○	
21	○			臨床医学各論Ⅳ	各疾患の特徴を覚え、医療人にふさわしい臨床医学の知識を学ぶ。	3後	30	2	○			○				○	
22	○			公衆衛生学Ⅰ	健康の概念、環境衛生、感染症を中心に学習する。	3前	30	2	○			○				○	
23	○			公衆衛生学Ⅱ	健康の概念、消毒、疫学を中心に学習する。	3後	30	2	○			○				○	
24	○			リハビリテーション医学Ⅰ	機能回復訓練等の理論について学ぶ。	2前	30	2	○			○				○	
25	○			リハビリテーション医学Ⅱ	機能回復訓練等の実践方法について学ぶ。	2後	30	2	○			○				○	
26	○			関係法規	はり師きゅう師に関する法律を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	

27	○	医療概論	医学の歴史や医療の現状について学ぶ。	1 後	30	2	○			○		○	
28	○	医療倫理学	新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、鍼灸師に求められる職業人としての心構えを学ぶ。	1 後	30	2	○			○		○	
29	○	基礎鍼灸理論	鍼灸の基礎知識、リスク管理を学習する。	1 前	30	1	○			○		○	
30	○	経絡経穴学Ⅰ	流注や経穴の名称を学習する。	1 前	30	1	○			○		○	
31	○	経絡経穴学Ⅱ	流注や経穴の名称を学習する。	1 後	30	1	○			○		○	
32	○	経絡経穴学Ⅲ	経穴の位置を学習する。 解剖学的理解を深める。	2 前	30	1	○			○		○	
33	○	東医基礎学Ⅰ	東洋医学の歴史・東洋医学的治療論を学び、中医の基礎を理解する。	1 前	60	2	○			○		○	
34	○	東医基礎学Ⅱ	東洋医学の歴史・東洋医学的治療論を学び、中医の基礎を理解する。	1 後	60	2	○			○		○	
35	○	東医基礎学Ⅲ	東洋医学の生理・病理・思想を学び、中医の考え方を理解する。	3 前	30	1	○			○		○	
36	○	臨床経絡経穴学	経穴の穴性、臨床応用を学習する。	2 後	30	1	○			○		○	
37	○	臨床鍼灸理論	鍼灸の治効理論を学習する	3 前	30	1	○			○		○	
38	○	東医診断学	中医基礎理論に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の診断方法を学習する。	2 前	30	1	○			○		○	
39	○	鍼灸診断学	診察・検査・カルテ記載方法について学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○	
40	○	東医治療学	中医診断学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の治療理論を学ぶ。	2 後	60	2	○			○		○	
41	○	鍼灸治療学	運動器系および鎮痛を必要とする疾患について鍼灸治療法を学ぶ。	2 後	60	2	○			○		○	
42	○	東医臨床学Ⅰ	鍼灸治療が行われている疾患のうち、東洋医学的治療法の知識を深める。	3 前	30	1	○			○		○	
43	○	東医臨床学Ⅱ	鍼灸治療が行われている疾患のうち、東洋医学的治療法の知識を深める。	3 後	30	1	○			○		○	
44	○	鍼灸臨床学Ⅰ	鍼灸治療が行われている疾患のうち、現代医学的治療法の知識を深める。	3 前	30	1	○			○		○	
45	○	鍼灸臨床学Ⅱ	鍼灸治療が行われている疾患のうち、現代医学的治療法の知識を深める。	3 後	30	1	○			○		○	
46	○	臨床総合学	鍼灸臨床現場で診る機会が多い疾患や症候などを、重点的に学習する。	3 後	30	1	○			○		○	
47	○	はりきゅう社会学	資格者として、治療所として必要な知識などを学ぶ。	3 後	60	2	○			○		○	
48	○	鍼灸基礎実技Ⅰ	施鍼、施灸練習機器等を用い基本を学ぶ。その後、人体の各部位に対して適切に施術が出来、かつ施術感覚を習得する。	1 前	60	2			○	○		○	
49	○	鍼灸基礎実技Ⅱ	施鍼、施灸練習機器等を用い基本を学ぶ。その後、人体の各部位に対して適切に施術が出来、かつ施術感覚を習得する。	1 後	60	2			○	○		○	
50	○	鍼灸診断実技	診察・検査・カルテ記載方法に基づいて診察診断の実技基礎を習得する。	2 前	30	1			○	○		○	
51	○	東医診断実技	中医診断学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の診察診断の実技基礎を習得する。	2 前	30	1			○	○		○	
52	○	鍼灸治療実技	臨床で多く遭遇する症例に対する西洋系の施術方法を学ぶ。	2 後	30	1			○	○		○	
53	○	東医治療実技	臨床で多く遭遇する症例に対する東洋系の施術方法を学ぶ。	2 後	30	1			○	○		○	
54	○	鍼灸臨床実技Ⅰ	整形外科系や内科疾患の疾患について診断・治療技術を習得する。	3 前	30	1			○	○		○	
55	○	鍼灸臨床実技Ⅱ	整形外科系や内科疾患の疾患について診断・治療技術を習得する。	3 後	30	1			○	○		○	

56	○	東医臨床実技 I	東医治療学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の鍼灸治療技術を習得する。	3前	30	1				○	○	○						
57	○	東医臨床実技 II	東医治療学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の鍼灸治療技術を習得する。	3後	30	1				○	○	○						
58	○	経絡経穴実技 I	骨学・筋学・神経学を学ぶ。この教科を学ぶことで他の科目の基礎とする。	1後	30	1				○	○	○						
59	○	経絡経穴実技 II	骨学・筋学・神経学を学ぶ。この教科を学ぶことで他の科目の基礎とする。	2前	30	1				○	○	○						
60	○	鍼灸総合実技	内臓・脈管を学ぶ。内臓の構造や機能、生理活動を理解し、脈管の走行を覚える。	3後	30	1				○	○	○						
61	○	スポーツ鍼灸実技	スポーツ疾患に対する診断・治療技術を習得する。	3後	30	1				○	○	○						
62	○	附属治療所実技 I	附属治療所・外部治療院の見学、現場で必要な配慮や対応方法を学ぶ。	2前後	90	2				○	○	○						
63	○	附属治療所実技 II	附属治療所・外部治療院での臨床実習、医療面接から治療までの流れを習得する。	3前後	90	2				○	○	○						
64	○	総合演習 I	臨床に必要な知識・技能を学習し習得するために、総合的な演習を行う。	1後	30	2			○		○	○						
65	○	総合演習 II	臨床に必要な知識・技能を学習し習得するために、総合的な演習を行う。	2後	30	2			○		○	○						
66	○	総合演習 III	臨床に必要な知識・技能を学習し習得するために、総合的な演習を行う。	3前	60	4			○		○	○						
67	○	総合演習 IV	臨床に必要な知識・技能を学習し習得するために、総合的な演習を行う。	3後	30	2			○		○	○						
68	○	卒業研究 I	研究活動を通して、テーマ選定から実験計画・実験・まとめ・発表・報告書作成を行う。	2後	30	2			○		○	○						
69	○	卒業研究 II	研究活動を通して、テーマ選定から実験計画・実験・まとめ・発表・報告書作成を行う。	3前	30	2			○		○	○						
70	○	東洋医学演習	中医学の起源である中国の大学において医学の基礎を学び、東洋医学の専門家となるべく礎を築く。もしくは、学内にて演習を行い修得する。	2後	30	2			○			○	○					
71	○	救急処置法 I	緊急時に必要な救急処置を冷静沈着に行えるよう、正しい知識と技術を習得する。	1前	30	2			○		○		○					
72	○	救急処置法 II	スポーツ外傷、また障害発生時に行う適切かつ迅速な救急手当を習得する。	1後	30	2			○		○			○				
73	○	スポーツ医学概論 I	スポーツ指導者に必要な医学的知識を学ぶ。	1後	30	2		○			○	○						
74	○	スポーツ医学概論 II	身体の仕組みと働き、成長や性による特徴などをスポーツ医学の見地から学ぶ。	2前	30	2		○			○	○						
75	○	スポーツ内科学	スポーツ選手に見られる内科的疾患について学ぶ。	3前	30	2		○			○	○						
76	○	スポーツ外傷論 I	体幹および上肢のスポーツ外傷・障害について学ぶ。	2後	30	2		○			○	○						
77	○	スポーツ外傷論 II	下肢のスポーツ外傷・障害および頭頸部などにおける重篤な傷害について学ぶ。	3前	30	2		○			○	○						
78	○	健康管理学 I	スポーツの文化的、社会的意義、また地域スポーツのあり方などについて学ぶ。	3後	30	2		○			○	○						
79	○	健康管理学 II	スポーツの文化的、社会的意義、また地域スポーツのあり方などについて学ぶ。	3後	30	2		○			○	○						
80	○	トレーニング理論・実習	トレーニング理論を運動生理学と機能解剖学をベースに学ぶ。	1前	30	1				○	○				○	○		
81	○	トレーニング総合実習	正しいトレーニング理論のもと、様々なトレーニング手法を学び、実践する。	1後	30	1				○	○				○	○		
82	○	トレーナー概論	アスレティックトレーナーとしての基礎知識を歴史、業務、組織運営など多様な角度から学ぶ。	1前	30	2		○			○				○			
83	○	トレーニング科学 I	スポーツ動作におけるバイオメカニクスを考慮したトレーニングを学ぶ。	2前	30	2		○			○				○	○		
84	○	トレーニング科学 II	パーソナルトレーニングまたチーム単位のストレングストレーニングについて実践的に学ぶ。	2後	30	2		○			○				○	○		

85	○	○	○	予防とコンディショニングⅠ	コンディショニング理論を学び、ストレッチングを中心に実際のコンディショニングの手法を習得する。	2前	60	4		○	○	○	○	○	○	
86	○	○	○	予防とコンディショニングⅡ	コンディショニング理論を学び、テーピング、トレーニング、マッサージなどの手法を習得する。	2後	30	2		○	○	○	○	○	○	
87	○	○	○	リコンディショニングⅠ	リコンディショニング理論を学び、目的別、部位別のプログラムを作成、実践する。	2後	30	2		○	○	○	○	○	○	
88	○	○	○	リコンディショニングⅡ	リコンディショニング理論を学び、部位別、競技別のプログラムを作成、実践する。	3前	60	4		○	○	○	○	○	○	
89	○	○	○	メンタルヘルス	スポーツ領域で活用される心理学理論、手法を学ぶ。	1前	30	2		○	○	○	○	○	○	
90	○	○	○	水泳実習	健康運動実践指導者受験のための必須科目。水中運動、基礎泳法、安全管理法の理論と基礎技能を習得する。	1前	30	1	△	○	○	○	○	○	○	
91	○	○	○	トレーナー実習Ⅰ	スポーツ現場等での実習を通じ、学習内容の活用法を学び、職業訓練につなげる。	2前	30	1	△	○	○	○	○	○	○	
92	○	○	○	トレーナー実習Ⅱ	スポーツ現場等での実習を通じ、学習内容の活用法を学び、職業訓練につなげる。	2後	30	1	△	○	○	○	○	○	○	
93	○	○	○	トレーナー実習Ⅲ	スポーツ現場の実習で経験したケガの処置や体験などを他学生にカンファレンスし、全員で共有する。	3前	60	2	△	○	○	○	○	○	○	
94	○	○	○	トレーナー実習Ⅳ	スポーツ現場の実習で経験したケガの処置や体験などを他学生にカンファレンスし、全員で共有する。	3後	60	2	△	○	○	○	○	○	○	
合計						94	科目	171								単位(単位時間)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 所定の授業日数の3分の2を超えて出席し、かつ所定の科目すべて合格		1学年の学期区分	2期
履修方法： 全ての学生が開講されている科目をすべて履修する		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。